

まず、活動報告では、事務局から今年度見学会を34回実施し、小・中学校35校、1,400名弱の参加があった旨の報告があり、その後、福岡・熊本・下関の3支局等から実施事業に関する報告がありました。

主な発言内容は、

●中学校教諭対象の見学会を実施したが、人材育成の手段として社会科の先生方の意識啓発は、授業を通じて間接的ながら生徒海事産業の情報を提供でき得ることや、今後、様々な人材育成の取組みを行っていくうえで、何がしかの協力が期待できるということなどの効果が認められる。

●生徒達への意識啓発活動の取組みと併せ、こうした先生への情報提供の機会を作ることも効果的であると考えられる。

●造船所見学では「タンカーの迫力は忘れられない。」「もう一度参加したい。」等の感想や、フェリー乗船体験では、「初めて船に乗り、かもめと触れ合って楽しかった。」など好評であった。

●山間部の小学生と父兄を対象に見学会を実施したが、見学を通じて「海の仕事に興味を持った」という生徒が72%と好評であった。

●もっとマスコミに関心を示していただくために、小刻みにプレスリリースを行うなど工夫を凝らした結果、以前にも増してテレビ放映や新聞掲載などの効果があった。

等でした。

引き続き、関係団体の中から活動報告がありましたが、その主な発言内容は、

●「海の日」の一大イベントである“海フェスタながさき”の結果報告。

●フェリー事業者や造船事業者独自で開催したフェリー見学会・進水式見学会等で約13,000人の参加があった旨の報告。

●九州7県及び山口県の小・中学校505校を対象とした「海事産業に関する意識・関心、見学会や体験学習等」のアンケート結果の報告。

●全日本海員組合による海員学校及び水産高校教諭との意見交換会や奨学金制度に関する活動報告。

等でした。

その後、次年度の活動計画として、喫緊の課題である「若年内航船員確保」のために、船員教育機関以外の水産高等学校生徒を対象に内航海運事業者や教育機関等の関係者と連携を図り、

- ・実際の職場の雰囲気や業務内容を直接体験させるインターシップの実施。
- ・内航船員の職業キャリアパスや職業紹介など内航船員になるための就業支援。
- ・保護者に向けた海事産業セミナーの開催。

等の取り組みを実施する旨、事務局から説明がありました。

その後、関係団体からも助成金を含め協力していく旨の発言があり、参加者でその内容を確認しました。

当協議会では、今後も海の大切さ・海事産業の果たす役割についての広報活動や海事産業に携わる人材育成に関する施策を推進して参ります。

※当日の会議の様子は、以下のURLからご覧になれます。

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_116_4.pdf

(九州海事産業次世代人材育成推進協議会事務局 (海事振興部))

▼▼「九州物流セミナー2011」を開催しました▼▼

我が国は、2020年に温室効果ガスを1990年比で25%削減するとの目標を掲げており、物流部門においても環境問題への対応は緊急の課題となっています。

このような中で、去る2月16日、福岡市内において九州運輸局主催（共催＝九州地方通運業連盟、後援＝九州経済産業局）による「九州物流セミナー2011～モーダルシフトはグリーン物流の主役です～」が開催されました。

当日は、物流部門における環境負荷低減に最も効率的なモーダルシフトの先進的な取り組み事例を①パナソニックロジスティクス株式会社の樋渡大幸氏から、「パナソニックグループのモーダルシフト拡大取り組み」と題し、また、トヨタ自動車九州株式会社の塙(ハシ)康晴氏から、「トヨタ自動車九州物流の取組について」と題する講演がそれぞれありました。

参加者は、パナソニックのモーダルシフトへの転換へ意欲的な取り組みやトヨタ自動車九州の積載効率アップにとことん拘ったトレイの改良方法など、大企業の物流の効率化対策の紹介に興味深く聴講していました。

パナソニックのモーダルシフトへの転換へ意欲的な取り組みやトヨタ自動車九州の積載効率アップにとことん拘ったトレイの改良方法など、大企業の物流の効率化対策の紹介に参加者は興味深く聴講していました。

その後、国土交通本省の担当官から、「平成23年度グリーン物流補助事業」及び「国土交通省モーダルシフト推進補助事業」に関する説明も行われました。

第Ⅱ部では、40名限定でJR貨物福岡貨物ターミナル駅でコンテナの展示会などを実施し、最新の31フィートウイング式コンテナやターミナル駅の概要説明などを受け、モーダルシフトに対して理解を深められ、参加者にも大変好評でし

